



17人による白の空間展の言

これは、一つの試みである。

何の規定もない、「白の空間」という、言葉が、作家の前へ投げ出される。

作家は、自ら、「白の空間」を規定せねばならない。「白の」も、「空間」も、自由な解釈が許される。個々の作家の解釈こそが、真のテーマと言ってよい。

「白」について言えば、純粹に視覚的な「白」から、「空白」や更に、「余白」という、メタフィジックな「白」もある。「白」を喜ぶ、朝鮮半島では、「清白の人」と言えば、「善良な人」を意味するというし、アメリカでは、「白」は、わが国に於ける、「灰色」の如く、不明確、不明朗を意味するという。

「空間」について言うならば、物理的二次元、三次元空間から、平面に於ける、イリュージョンによる、三次元空間から、コンセプトや言語や他の表現手段による、多次元的空间も予想される。

17人の作家は、今日まで自らの築いてきた、世界を検証し、自己の根源に立ち帰って、自分自身の、「白の空間」を表現することとなる。従って、17人による、17の「白の空間」が提示されることとなる。

蛇足乍ら、敢えて、私見を述べることを許されるならば、私にとって、「白の空間」とは、複雑怪奇、巨大化、錯綜した、現代世界の、はるか彼方に存在する、清浄無雑、神韻縹渺たる、別天地の消息を伝えるものである。

山内重太郎